

# 令和元年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名                      緑風会

政務活動期間	令和元年7月8日～10日（3日間）
政務活動先	香川県三豊市・高知県宿毛市・愛知県宇和島市
政務活動参加者	五十嵐信子・佐々木常子（公明） 高谷 茂・島田 裕司・秋場 陽一（緑風会）（5名）
政務活動項目	○バイオマスセンター資源化みとよ視察 ○株式会社グリーンエネルギー研究所視察 ○庁舎建設について ○災害用井戸について
政務活動項目に係る （目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

# 令和 元年度 政務活動報告書

日 程




令和元年 7月8日～7月10日 (3日間)

研 修	7/8 三豊市 (香川県) ○バイオマス資源センターみとよの運営
視察地	7/9 宿毛市 (高知県) ○グリーンエネルギー研究所 ○宿毛市役所
場 所	7/9～10宇和島市 (愛媛県) ○宇和島市役所・災害用井戸・吉田地区・○内子町道の駅

政務活動	① 高谷 茂	③秋場信一	④五十嵐信子
参加者	② 島田裕司		⑤佐々木常子
(合計5名)			

政 務	8日	○トンネルコンポスト式、可燃性ゴミ再生処理施設
活 動 項 目	9日	○PFI庁舎建設、合築型小中一貫校建設 ○バイオマス発電所—(株)グリーンエネルギー研究所
	9～10日	○土砂災害被災地視察 ○地区会と災害井戸の利活用 ○道の駅うちこ

香川県三豊市	7月8日	バイオマス資源センターみとよ 株式会社エコマスター
--------	------	---------------------------

<p>(株)エコマスター</p> <p>説明・同席者 社長 右田周治 センター長 鎌倉秀行 三豊市 (環境衛生課)</p> <p>・課長補 白井肇 ・主事 今井健太</p> <p>(研修結果等の概要・所見)</p> <p>政務活動項目に係る</p>	<p>初日:13:00 ●トンネルコンポスト式、 可燃性ゴミを乾燥発酵で固形燃料のリサイクル施設</p> <p>可燃ごみを燃やさずエネルギー資源(燃料)に変えるリサイクルがイタリアや欧州から広がり、バイオ発酵を取入れたゴミ処理は日本でも発展が予想される。三豊市はそのシステムを日本で最初に導入した民間企業に民設民営で委託した。条件は焼却施設の更新より低廉である事で7社によるプロポーザルだった。</p> <p><b>破碎分別一発酵・乾燥一資源</b>へと焼却せず、可燃性ゴミの環境負荷の軽減と経済性の実現を可能にした依託企業の(株)エコマスターを視察。</p> <p>ゴミの対策は、どの自治体も大きな負担になっているがそれらは燃やすことで発生する環境問題や焼却炉の維持更新など課題を抱えている。</p> <p>今回の視察先のシステムは<b>当別町の将来にとっても</b>大きな可能性のある取り組みとも考えられる可燃性のゴミ問題の理想的な処理として大いに注目される。</p> <p><b>コンポストから17日間後乾燥ゴミは固形燃料の工程に運ばれる。</b></p> <p>中でも特徴的なのはコンクリート製のバイオトンネルに17日間ゴミが微生物の<b>高熱発酵で分解・乾燥させ、臭気の</b>除去も可能にした独自の施設で、施設長の説明と市職員含めて活発な意見交換をした。</p>	<p>等間隔のチューブで水を注ぎ上がってくる臭気が消える。</p>  <p>水分含んだ木片を通して脱臭</p> <p>この水は再利用される</p>  <p>視察前に、モニターで工場全体の説明</p>  <p>硬く固める固形燃料製造工場へ</p> <p>学校教育との連携でゴミだしにも効果が!</p>
--	---	---

高知県	2日目
宿毛市  (株)グリーンエネルギー研究所  所長 平尾強一  議長・野々下昌文  議会事務局長 ・朝比奈淳司  議会事務局次長 ・奈良和美  総務課長補佐 ・長山敏昭  係長・川田匡一  契約・上岡信勝	<p>(株)グリーンエネルギー研究所</p> <p>●宿毛バイオマス発電所 → 大学と企業との産学連携ベンチャー</p> <p>研修室での説明を受け、発電事業と木質ペレット事業の質疑応答、意見交換の後、施設全容の移動説明も受けました。その間にも、若い社員の出入りが頻繁にあり、雇用は30人以上で常時17人が稼働し、<b>地元への貢献と期待は大きい。</b></p> <p>単価の高い国有林の計画伐採樹木などは仕分け保管され、他に林地残材、間伐材端材など未利用資源を発電にすることで、<b>森林の保全</b> 山間地域での<b>雇用拡大促進</b>といった不随効果も期待される。</p> <p>●宿毛市役所</p> <p>次の研修は宿毛市役所へ。高台移転が決まった<b>PFI</b>方式での市役所新庁舎と<b>合築型</b>の小中学校の建設について意見交換した。</p> <p>特に市役所移転では大きな反対運動があり、その経緯や理解を得るための丁寧な説明と、費やした期間の経緯など、決定までの難航状況が伺えた。また、建築費については、<b>30年のPFIの活用による</b></p> <p>歳出の平準化などのメリット、またはデメリットについての説明もあった。</p> <p>庁舎については財政面での意見交換に集中した。</p> <p>小中学校についても同様であったが、一体型ではなく合築型にした経緯が説明され、公共施設の建設の立地や構造の前提にある考えは、将来予想される南海トラフの襲来であり、大災害対策の違いも感じた。</p> <p>今回研修した大型公共施設の建設については、PFI活用での公・民の双方に考え方があり、30年リース契約は、妥協ラインなのか。</p> <p>PPP・PFIなどの民間の資金を活用する公共のあり方は、わが町にも検討する時期が来るのか。いずれにせよ、公共であるが故の公平性や公正性が担保されなければならないのだろう。</p> <p>当別町の近い将来を見据えたときに、公共の建設と民間資金の関係にあるPFIについて、実務者へ研修出来たことは意義深いことであった。</p>

多くの雇用を支えるバイオマス発電所



多くの若者を雇用する発電所

雨の中、傘移動も濡れ、必至でした。内部の撮影は限定された。



周辺地区から搬入された木を重機で破碎処理。ここでも若手作業員が。



宿毛市役所での意見交換

※PFI・PPPとは:民間の資金やノウハウを活かす、施設建設・運営など官との連携した取り組み

レポート③

<p>愛媛県</p>	<p>2～3日目 9日～10日</p>
<p>宇和島市 研修 視察ルート</p> <p>説明・同行職員 生活環境・衛生係長 薬師寺宜彦</p> <p>議会事務局長 古谷輝生 次長 木原義文</p>	<p>●宇和島市役所—市内災害用井戸—吉田地区(昨年の土砂被災地)—内子町道の駅</p> <div data-bbox="331 421 702 757"> <p>昨年の大規模断水と土砂災害後の生活用水の井戸の活用について研修。</p> </div> <p>2日目午後、宿毛を後に15時頃に宇和島入り、市の職員引率で災害応急井戸の現地視察した。          昨年の大規模災害時で水道給水が停止、飲料水以外の生活用水対策として、所有者の善意に基づき、個人の井戸を自治会ごとに利用を可能にする手引を作成した。          9日午後</p> <div data-bbox="1161 560 1528 784"> <p>井戸、所有者の地元議員と記念写真、日頃使用することが水質の維持に。</p> </div> <div data-bbox="917 734 1484 1115"> <p>宇和島市の災害用井戸の前で</p> </div> <p>3日目(10日)          朝のうちに、昨年の土砂による最大の被災地である吉田地区を見舞いを兼ねて現地視察した。昨日は通して雨降り、ようやく今日は曇り。          日本一のミカン産地で急傾斜地の吉田地区では被害の爪痕がまだまだ残されていた。          復興は始まったばかりと云う、この地区の上水も復旧が遅れ、緊急の対策措置で東京五輪に使用予定の大型移動式の浄水プラントが稼働中で一帯の飲料水を供給していた。          復興にはまだ時間を要しそうだ！</p> <div data-bbox="753 1281 1136 1473"> <p>この地区の写真撮影は控えました。</p> </div> <div data-bbox="1168 1303 1481 1563"> <p>井戸の敷地で説明を受ける</p> </div> <div data-bbox="331 1534 710 1792"> <p>レストラン</p> </div> <p>10日 昼12時          松山空港14:30フライトに間に合うようレンタカーで途中、西予市にある注目度の高い、道の駅「うちこ」で昼食          南国ムード漂う、森の中のレストランに！高齢者や団体に満員！環境抜群！平日も人が集まる、心休まる、道の駅でした。</p>